

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名≪美術(美術)≫

※詳細については、資料Ⅱ(美術-4～美術-8)を参照。

発行者の略称	開隆堂	書名	美術
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能が『用具を知って使ってみよう』に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、発想や構想の手掛かりが『発想・構想のヒント』に掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、創造活動の喜びや美術の学びの意義を示したメッセージが『美術と共に生きていく』に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「豊かな心」について、インクルーシブな社会の実現に向けたデザインの意味や役割を考える学習活動が【つながるデザイン】に設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「責任感」について、美術を通じた持続可能な世界をめざす取組が『持続可能な未来へ』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、自己の内面を見つめ、自分と向き合って表現する学習活動が【自分と向き合う】に設定されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、学習のまとまりごとに何をどう表現するのが『自分の思いを表そう』に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、社会科と関連する学習活動が【美術史の扉】に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、作品を比べて違いを話し合う学習活動が【印象派の表現の広がり】に設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、仏像彫刻の造形の特徴や空間の構成を考える学習活動が【仏像が表す世界】に設定されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、自然の材料の生かし方を考え遊ぶものをつくる学習活動が【つくって体感みんなで体験】に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校図画工作科での学習の振り返りが『図画工作から美術へ』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、作者や作品の創造性を尊重することや著作物の利用の仕方が『著作権を知ろう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、学習活動の進め方がキャラクターの吹き出しに掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【語る彫刻】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることについて、漫画と文化財との表現のつながりが『私たちに身近な美術』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 自分らしい思いや考えをもつことについて、表現及び鑑賞の題材に、何に注目するのかやどのように思考するのが『発想・構想』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、[共通事項]の学習内容を関連させることについて、空間や光の表現から、造形的なよさや美しさを考える学習活動が【私が見つめた風景】に設定されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 美術1は20題材、美術2・3は37題材。それぞれの題材は1ページから8ページで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名≪美術(美術)≫

※詳細については、資料Ⅱ(美術-4～美術-8)を参照。

発行者の略称	光村	書名	美術
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能が『どんな材料でつくる?』に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、アイデアを生み出すきっかけが『発想のしかたはさまざま』に掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、創造活動の喜びや美術の学びの意義につながる詩が『うつくしい!』に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「豊かな心」について、ユニバーサルデザインの特徴や役割を考える学習活動が【みんなのためのデザイン】に設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「責任感」について、美術を通じたよりよい未来へ向けた問いが『私たちに問いかける美術』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、自己の内面を見つめ、今や将来の自分を表現する学習活動が【今の自分、これからの自分】に設定されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、学習のまとめごとに何をどう表現するのかを『絵や彫刻』の世界』に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、音楽科と関連する学習活動が【響き合う形と色】に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、作品から物語を想像して話し合う学習活動が【ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏場】を鑑賞しよう』に設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の文化や表現の特徴について考える学習活動が【日本の絵画を楽しむ五つのキーワード】に設定されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、自然の材料に触れ、生活に使うものをつくる学習活動が【木と親しむ暮らし】に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校図画工作科の学びを生かすことが『美術の扉を開こう』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、作者や作品の創造性を尊重することや著作権や肖像権の説明が『学習を支える資料一覧』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、生徒の学習活動の過程が『みんなの工夫』に掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【最後の晩餐】を鑑賞しよう』に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることについて、生徒が生活の中の瞬間や風景を撮影した作品が『うつくしい!を探してみよう』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 自分らしい思いや考えをもつことについて、表現及び鑑賞の題材に、何に着目するのかやどのように思考するのかを『表現 発想・構想』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、[共通事項]の学習内容を関連させることについて、色づかいや構図をもとに、造形的なよさや美しさを考える学習活動が【心ひかれるこの風景】に設定されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 美術1は27題材、美術1資料は17題材、美術2・3は34題材。それぞれの題材ページは1ページから8ページで構成されており、1題材のみ16ページで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型は美術1と美術2・3にA4変型判が採用されている。美術1資料にA4判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全てのページについて、次の観点から、専門家による校閲を行っています。カラーユニバーサルデザイン/特別支援教育/学習のユニバーサルデザイン/人権教育/外国人児童生徒等教育/防災教育』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《美術(美術)》

※詳細については、資料Ⅱ(美術-4～美術-8)を参照。

発行者の略称	日文	書名	美術 学びの探求と未来
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能が『どんなふうを描きたい?』に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、どのように発想や構想をするのかが『発想・構想の手立て②』に掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、創造活動の喜びや美術の学びの意義を示したオリエンテーションが『学びの実感と深まり』に掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「豊かな心」について、社会や暮らしの中での美術の働きを考える学習活動が【デザインの手でできること】に設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「責任感」について、美術を通じて環境問題を投げかける作品が『問題を提起する力』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、自己の内面を見つめ、自分と対話して表現する学習活動が【わたし自身を見つめて】に設定されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、学習のまとまりごとに何をどう表現するのかを『絵や彫刻との出会い』に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、道徳科と関連する学習活動が【住み続けられる町づくり】に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、作品の見え方の変化を話し合う学習活動が【屏風、美のしかけ】に設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の美意識や技を考える学習活動が【日本の技と心を受け継いで】に設定されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、自然の材料で染めたり、身に付けるものをつくったりする学習活動が【自分を表現する色】に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校図画工作科と中学校の3年間の学びのつながりが『ようこそ美術の学びへ』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、作者や作品の創造性を尊重することや著作権や肖像権の考え方が『動画で表現する』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、学習活動での作品の見方が『造形的な視点』に掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【瞬間の美しさを形に】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることについて、生徒が暮らしの中の発見や喜びを撮影した作品が『あなたの美を見つけて』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 自分らしい思いや考えをもつことについて、表現及び鑑賞の題材に、何に着目するのかやどのように思考するのかを『鑑賞の入り口』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、[共通事項]の学習内容を関連させることについて、イメージや構図に着目し、造形的なよさや美しさを考える学習活動が【なぜか気になる情景】に設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 美術1は35題材、美術2・3上は29題材、2・3下は24題材。それぞれの題材ページは1ページから6ページで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《美術(美術)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
開隆堂	「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能が『用具を知って使ってみよう』や『量感の表現』に掲載されている。
光村	「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能が『どんな材料でつくる?』や『どうやって描く?』に掲載されている。
日文	「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能が『どんなふうに描きたい?』や『立体を描く』に掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、発想や構想の手掛かりが『発想・構想のヒント』に、鑑賞の方法が『鑑賞ってなんだろう』に掲載されている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、アイデアを生み出すきっかけが『発想のしかたはさまざま』に、鑑賞で使う言葉が『美術鑑賞を楽しむ手がかり』に掲載されている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、どのように発想や構想をするのが『発想・構想の手立て②』に、鑑賞の対象が『鑑賞との出会い』に掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
開隆堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、創造活動の喜びや美術の学びの意義を示したメッセージが『美術と共に生きていく』に、各題材の学びの目標が『学習の目標』に掲載されている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、創造活動の喜びや美術の学びの意義につながる詩が『うつくしい!』に、各題材の学びの目標が『目標』に掲載されている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、創造活動の喜びや美術の学びの意義を示したオリエンテーションが『学びの実感と深まり』に、各題材の学びの目標が『学びの目標』に掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
開隆堂	[思いやる力]の「豊かな心」について、インクルーシブな社会の実現に向けたデザインの意味や役割を考える学習活動が【つながるデザイン】に設定されている。また、一人ひとりの絵を貼り合わせた作品が『クラス生徒図鑑』に掲載されている。
光村	[思いやる力]の「豊かな心」について、ユニバーサルデザインの特徴や役割を考える学習活動が【みんなのためのデザイン】に設定されている。また、色覚の特性による見え方や配色の方法が『色の効果と配色』に掲載されている。
日文	[思いやる力]の「豊かな心」について、社会や暮らしの中での美術の働きを考える学習活動が【デザインの力でできること】に設定されている。また、デザイナーのインタビューが『文字から考える他者のためのデザイン』に掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力、消費者教育 など)	
開隆堂	[たくましく生きる力]の「責任感」について、美術を通じた持続可能な世界をめざす取組が『持続可能な未来へ』に、修理をしながら装飾する技法が『器を使い続ける工夫』に掲載されている。
光村	[たくましく生きる力]の「責任感」について、美術を通じたよりよい未来へ向けた問いが『私たちに問いかける美術』に、防災のためにデザインされた作品が『防災の知識を身につける』に掲載されている。
日文	[たくましく生きる力]の「責任感」について、美術を通じて環境問題を投げかける作品が『問題を提起する力』に、自然の物や廃材の利用が『材料は身の回りで探そう』に掲載されている。

⑥【社会とかかわる力】社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動、環境教育、シチズンシップ教育 など)	
開隆堂	【社会とかかわる力】の「生きること」について、自己の内面を見つめ、自分と向き合って表現する学習活動が【自分と向き合う】に設定されている。また、美術の学びと将来や社会とのつながりが『美術と私と社会』に掲載されている。
光村	【社会とかかわる力】の「生きること」について、自己の内面を見つめ、今や将来の自分を表現する学習活動が【今の自分、これからの自分】に設定されている。また、社会の中での美術の力や働きが『美術の力』に掲載されている。
日文	【社会とかかわる力】の「生きること」について、自己の内面を見つめ、自分と対話して表現する学習活動が【わたし自身を見つめて】に設定されている。また、美術の学びが社会でどのように生きるかが『社会に生きる美術の力』に掲載されている。

3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
開隆堂	主体的・対話的で深い学びについて、学習のまとめりごとに何をどう表現するのが『自分の思いを表そう』や『つくることでつながる』に掲載されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、学習のまとめりごとに何をどう表現するのが『「絵や彫刻」の世界』や『「デザインや工芸」の世界』に掲載されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、学習のまとめりごとに何をどう表現するのが『絵や彫刻との出会い』や『デザインや工芸との出会い』に掲載されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
開隆堂	カリキュラム・マネジメントについて、社会科と関連する学習活動が【美術史の扉】に、技術・家庭科と関連する学習活動が【ずっと木といっしょに】に設定されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、音楽科と関連する学習活動が【響き合う形と色】に、数学科と関連する学習活動が【地域の魅力を表すパッケージ】に設定されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、道徳科と関連する学習活動が【住み続けられる町づくり】に、社会科と関連する学習活動が【原始の美に出会う旅】に設定されている。

- 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
開隆堂	言語能力の育成について、作品を比べて違いを話し合う学習活動が【印象派の表現の広がり】に設定されている。また、感じたことを言葉とともに残したスケッチが『スケッチや記録をとる』に掲載されている。
光村	言語能力の育成について、作品から物語を想像して話し合う学習活動が【「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏場」を鑑賞しよう】に設定されている。また、言葉で考えを広げたり整理したりする方法が『発想・構想のために』に掲載されている。
日文	言語能力の育成について、作品の見え方の変化を話し合う学習活動が【屏風、美のしかけ】に設定されている。また、日常生活の中の色や形を言葉とともに残した記録が『アイデアをストックしておこう』に掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
開隆堂	伝統や文化に関する教育の充実について、仏像彫刻の造形の特徴や空間の構成を考える学習活動が【仏像が表す世界】に、日本の表現がどのように西洋の作品に影響を与えたのかを考える学習活動が【時代と文化を越えて】に設定されている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、日本の文化や表現の特徴について考える学習活動が【日本の絵画を楽しむ五つのキーワード】に、世界各地の文様から共通点を話し合う学習活動が【暮らしをいろどる文様】に設定されている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、日本の美意識や技を考える学習活動が【日本の技と心を受け継いで】に、日本や西洋の文化財の修復から美術文化の継承と創造について考える学習活動が【どこまで修復すべきか】に設定されている。

⑪ 体験活動の充実	
開隆堂	体験活動の充実について、自然の材料の生かし方を考え遊ぶものをつくる学習活動が【つくって体感みんなで体験】に、展覧会の企画や告知をする学習活動が【展覧会をつくる】に設定されている。
光村	体験活動の充実について、自然の材料に触れ、生活に使うものをつくる学習活動が【木と親しむ暮らし】に、友だちと協力して描く学習活動が【あれ？どうなっているの】に設定されている。
日文	体験活動の充実について、自然の材料で染めたり、身に付けるものをつくったりする学習活動が【自分を表現する色】に、友だちと模様の組み合わせを考える学習活動が【つなげて広がる模様の世界】に設定されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
開隆堂	学校段階間の円滑な接続について、小学校図画工作科での学習の振り返りが『図画工作から美術へ』に掲載されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、小学校図画工作科の学びを生かすことが『美術の扉を開こう』に掲載されている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、小学校図画工作科と中学校の3年間の学びのつながりが『ようこそ美術の学びへ』に掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
開隆堂	情報活用能力の育成について、作者や作品の創造性を尊重することや著作物の利用の仕方が『著作権を知ろう』に、著作権や肖像権の説明が『これってどう撮るの』に掲載されている。
光村	情報活用能力の育成について、作者や作品の創造性を尊重することや著作権や肖像権の説明が『学習を支える資料一覧』に、インターネット上の画像データについての留意点が『端末を活用する』に掲載されている。
日文	情報活用能力の育成について、作者や作品の創造性を尊重することや著作権や肖像権の考え方が『動画で表現する』に、写真を撮影するときの留意点が『写真で表現する』に掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
開隆堂	生徒の学習上の困難さへの対応について、学習活動の進め方がキャラクターの吹き出しに、題材ページの構成やマークの意味が『教科書の使い方』に掲載されている。
光村	生徒の学習上の困難さへの対応について、生徒の学習活動の過程が『みんなの工夫』に、題材ページの構成やマークの意味が『教科書を活用しよう』に掲載されている。
日文	生徒の学習上の困難さへの対応について、学習活動での作品の見方が『造形的な視点』に、題材ページの構成やマークの意味が『教科書の使い方』に掲載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【語る彫刻】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。
光村	生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【最後の晩餐】を鑑賞しよう】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。
日文	生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【瞬間の美しさを形に】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。
⑯ 生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることに、漫画と文化財との表現のつながりが『私たちに身近な美術』に、美術館での鑑賞の方法が『美術館へ行こう』に掲載されている。
光村	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることに、生徒が生活の中の瞬間や風景を撮影した作品が『うつくしい！を探してみよう』に、一日の生活の中にあるデザインや工芸品が『暮らしの中のデザイン・工芸』に掲載されている。
日文	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることに、生徒が暮らしの中の発見や喜びを撮影した作品が『あなたの美を見つけて』に、芸術は暮らしの中にあるものという考えが『岡本太郎“芸術はみんなのもの”』に掲載されている。

⑪ 生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に、自分らしい思いや考えをもつための工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	自分らしい思いや考えをもつことについて、表現及び鑑賞の題材に、何に着目するのかやどのように思考するのが『発想・構想』や『鑑賞』に掲載されている。
光村	自分らしい思いや考えをもつことについて、表現及び鑑賞の題材に、何に着目するのかやどのように思考するのが『表現 発想・構想』や『鑑賞』に掲載されている。
日文	自分らしい思いや考えをもつことについて、表現及び鑑賞の題材に、何に着目するのかやどのように思考するのが『鑑賞の入り口』や『表現のヒント』に掲載されている。
⑫ 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を関連させることについて、空間や光の表現から、造形的なよさや美しさを考える学習活動が【私が見つめた風景】に、形と色彩を手掛かりに作者の表現の意図と工夫を考える学習活動が【怒り、悲しみ、叫びのゆくえ】に設定されている。
光村	「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を関連させることについて、色づかいや構図をもとに、造形的なよさや美しさを考える学習活動が【心ひかれるこの風景】に、作風の変化や作者の表現の意図と工夫を考える学習活動が【「ゲルニカ」を鑑賞しよう】に設定されている。
日文	「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を関連させることについて、イメージや構図に着目し、造形的なよさや美しさを考える学習活動が【なぜか気になる情景】に、物の組み合わせやタッチに着目し、作者の表現の意図と工夫を考える学習活動が【あの日を忘れない】に設定されている。

4 分量・装丁・表記等

⑬ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
開隆堂	美術1は20題材、美術2・3は37題材。それぞれの題材は1ページから8ページで構成されている。
光村	美術1は27題材、美術1資料は17題材、美術2・3は34題材。それぞれの題材ページは1ページから8ページで構成されており、1題材のみ16ページで構成されている。
日文	美術1は35題材、美術2・3上は29題材、2・3下は24題材。それぞれの題材ページは1ページから6ページで構成されている。
⑭ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	判型はA4変型判が採用されている。
光村	判型は美術1と美術2・3にA4変型判が採用されている。美術1資料にA4判が採用されている。
日文	判型はA4変型判が採用されている。
⑮ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	『カラーユニバーサルデザインの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮しています。』と表記されている。
光村	『全てのページについて、次の観点から、専門家による校閲を行っています。カラーユニバーサルデザイン/特別支援教育/学習のユニバーサルデザイン/人権教育/外国人児童生徒等教育/防災教育』と表記されている。
日文	『より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する主な文章や写真・グラフ等の掲載

開隆堂	美術 1 美術 1 美術 1 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3	17ページ 42ページ 47ページ 65ページ 88ページ 117ページ	『朝涼』（鎌倉市鶴木清方記念美術館） 『横浜市き章』（横浜市） 『間伐材からつくられた食器』 『横須賀美術館のオリジナルピクトグラム「よこすかくん」』（横須賀美術館） 『工場地帯の夜景』 『富嶽三十六景 相州梅澤左』
光村	美術 1 美術 1 美術 1 美術 1 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3 美術 2・3	12ページ 50ページ 67ページ 67ページ 6ページ 26ページ 40ページ 47ページ 58ページ 67ページ 89ページ 102ページ	『横たわる像：アーチ状の足』（彫刻の森美術館） 『ロゴマーク』（横須賀美術館） 『横浜トリエンナーレ』（横浜市） 『さがみ風っ子展』（相模原市） 『安全な通行』（横浜美術館） 『縄文人』（川崎市岡本太郎美術館） 『富嶽三十六景神奈川沖浪裏』 『浮かぶ彫刻3』（彫刻の森美術館） 『立てる像』（神奈川県立近代美術館） 『海辺の母子像』（ポーラ美術館） 『サブレのパッケージ』（鎌倉市） 『鎌倉彫』（鎌倉市）
日文	美術 1 美術 1 美術 2・3上 美術 2・3上 美術 2・3上 美術 2・3上 美術 2・3下 美術 2・3下 美術 2・3下 美術 2・3下 美術 2・3下	45ページ 74ページ 20ページ 26ページ 31ページ 51ページ 21ページ 50ページ 51ページ 56ページ 58ページ	『地域のマーク』（川崎市） 『横浜美術館』 『跳ぶ』（川崎市岡本太郎美術館） 『「富嶽三十六景」より神奈川沖浪裏』 『睡蓮の池』（ポーラ美術館） 『坐ることを拒否する椅子』（川崎市岡本太郎美術館） 『横たわる像：アーチ状の足』（彫刻の森美術館） 『造形さがみ風っ子展』（相模原市） 『あつきギッズゲルニカ』（厚木市） 『水月観音坐像』（鎌倉市東慶寺） 『鎌倉彫』（鎌倉市）

② 一冊ごとの重量（g）

	冊数	1年	1年別冊	2・3年	2・3年上	2・3年下
開隆堂	2	276		476		
光村	3	296	134	406		
日文	3	292			256	242